

輝く足跡 地域に貢献

東北の各国立大で、研究や教育に従事してきた約40人の教授が31日、定年を迎える。さまざまな分野に多大な業績を残した退職教授のうち、岩手大工学部の岡英夫教授に長年、め、本年度の定年退職者はいない。

林業活性化へ磁気活用

「岩手の農林学と磁気応用工学の融合をテーマに試行錯誤を重ね、1990年代、木材に磁気の性質を持たせた「磁性木材」を開発した。国内外の大学や企業との共同研究を進め、通信機器が発する電波を吸収する建材や、磁石のようにくっつく家具材の実用化に結び付けた。

磁性木材は、磁性を持つ超微粒子の溶液に木材を浸して加工したり、木材チップに磁性粉を混ぜて成型したりして作る。木材に高い付加価値を与えることで、岩手をはじめ国内の林業活性化を目指す。2002年、携帯電話の電波を吸収する磁性木材が英国の科学雑誌で紹介されると、世界中の国々から約

岩手大工学部 岡 英夫教授(65)
＝磁性木材工学



おか・ひでお 岩手大大学院工学研究科修了。カナダ・トロント大博士研究員、岩手大助教を経て07年から現職。電気学会調査専門委員長などを歴任した。宮城県亘理町出身。

400件の問い合わせや取材があった。「地元で直接貢献できる研究を広く発信できた」と確かな手応えを感じたという。38年間に及んだ研究生活の大半を岩手大で過ごした。「最先端の機器類を取りそろえた著名大学や研究施設と同じ土壌では戦えない。地元の産業が抱える問題点の解決につながる研究を意識し続けてきた」。地元密着の一方で、海外で開催される国際会議に毎年出席。研究の最前線に触れ、着想の幅を広げた。4月以降も非常勤講師として岩手大で学生を指導する。「研究は忍耐

定年退職教授

- (国立大・東北大) 教務部
- 【弘前大】長谷川成一、村松恵一、清水明(人文学部、加藤謙治、藤田義、安藤隆治、大谷豊光(教育学部)、神田健策、石黒誠一、菊池美明、佐藤健二(大學生命科学部)、八木藤操六(大学院医学研究科)、千葉正司、松本光比古(同保健学研究科)、岡星葉、倉又秀一、佐藤魂夫(同理工学研究科)、松本貴(同地域社会研究科)
 - 【岩手大】回田裕樹、三浦康秀、百村泰樹(人文社会科学部)、井上祥史(教育学部)、井山俊郎、岡英夫(工学部)、野松木章、岡田益三、磯部公安、橋川一義、堀野一(農学部)
 - 【宮城教育大】千葉芳明(教育学部)
 - 【秋田大】吉永慎二(伊藤日出治(教育文化学部)、杉山俊博、山本文雄、護沼雅博(大学院医学系研究科)、佐藤博(同工学系研究科)
 - 【山形大】上野英昭、伏見和史(人文学部)、高木真、伊藤清郎、伊藤肇子、那須隆延、小関文典、鈴木隆(地域教育文化学部)、坂本政臣(同学部)、早坂清(医学部)広瀬精一、横山孝男、高橋一郎(大学院理工学研究科)、安藤豊、岡名学、大久保博(農学部)
 - 【福島大】飯島充男、清水修二(経済経営学部)、木村白翠、平田公子、松崎博文、森知高(人間発達文化学部)、新谷崇一、小島定、安田尚(行政政策学部)、渡辺明(社会学部)、入道(社会学部)